

視点

View Point

あなやま ていぞう
穴山 悌三氏

長野県立大学
グローバルマネジメント学部長 教授

長野県立大学は地域イノベーションを使命のひとつに掲げ、学生や教員が実際に県内各地に赴いて、産官民と連携しながら、地域課題の解決に取り組んでいます。また、今年は、長野商工会議所で「地域イノベーション塾」を開講いただきました。この塾でも、地域に付加価値を生み出すハブとしての役割を本学が果たすことで、個々の企業や業界、地域の発展に貢献できたらと願っています。

地域に付加価値を生み出すハブとして 地域イノベーションの創出に関わる



PROFILE

1987年東大経済学部卒業後、東京電力㈱入社。1996年東大大学院経済学研究科修士課程修了。学習院大学経済学部特別客員教授を経て2019年から現職。専門は公益事業論、規制の経済学、エネルギー経済、産業組織論

地域と連携してどんな取り組みをなさっていますか。

穴山 本学はその使命のひとつに地域イノベーションを掲げ、県の産業・文化・生活を活性化する「知の拠点」となり、地域に開かれた大学、地域とともに歩む大学を目指しています。それゆえ教員も学生も地域課題の解決に関わりたいとの意識が強く、私がおりますグローバルマネジメント学部も、健康発達学部においても、さまざまな場面で地域と連携しています。

とくにCSI（ソーシャル・イノベーション創出センター）では、産官民学それぞれの得意分野を活かしながら連携することで、新たな価値創出や地域課題の解決を推進しています。たとえば、王滝村、須坂市、東御市など県内各地へ学生たちが実際に赴いて、大学での専門的な学びを地域振興につなげようと努めています。

こうした取り組みを通して、学生もより実践的な学びの機会が得られ、特にグローバルマネジメント学部の学生にとっては、現実の課題を通して経営学を考え、起業の芽を育てることもつながります。また、個々の学生が学部学科の枠を越えた複眼的な視点を備えることも期待できます。今後、それぞれの地域課題を普段から身近に感じている地域コーディネーターの協力をいただきながら、

ら、こうした取り組みを促進していきます。

地元企業さんとはイベントを通じた交流の機会、CSIなどへのご支援をいただいています。私個人としてはもつといういろんな形で皆様と関わりがもてたらと願っています。たとえば、本学大学院「ソーシャル・イノベーション研究科」でより多くの社会人の方に学んでいただき、事業活動に役立ててもらえたら、地域に付加価値を生み出す、本学のハブとしての役割が果たせると考えています。

地域イノベーション塾に 期待すること

—— 長野商工会議所では穴山先生にご協力を願い、地域イノベーション塾がスタートしました。

穴山 たいへんありがたい機会をいただきました。塾に参加してくださった方は皆、各々の業界のプロフェッショナルです。その道については、多くの知識、経験を蓄積されています。しかし、専門性が高いゆえに、新たなものの価値に気付きにくくなることが起こります。これまでの成功体験が、新たな成功の道を見えにくくする、いわば「イノベーションのジレンマ」です。

地域イノベーション塾では、これまでの実績や今の立場を離れフラットに物事を見て、感じる機会や対話を時間を設けます。その実践が、ひいては

産業組織論の より実践的な領域に関心

—— 穴山先生のご専門の産業組織論とはどんな学問ですか。

穴山 産業組織論はミクロ経済学つまり企業など個々の経済主体の行動に注目する経済学の一分野で、1929年に始まった世界恐慌などを背景に発展しました。大企業が自らの利益を第一に考え、市場支配力を持ち過ぎることが、市場に悪影響を与えるのではないかとという危惧から、こうした状況が生じないように規制はどうすべきか、市場はどうあるべきか、どういう条件のもとなら適正な競争が行われるのか等を分析します。そこには、経済社会が良くなるために、企業の競争はどう行われるべきかという問題意識があります。

こうした伝統的な産業組織論に対して、経営戦略論は、企業が競争力を持ち続けるためにどうしたらよいか分析する学問で、企業の利潤をより高めることに目的を置いています。2つの学問は目的こそ違いますが、対象とする領域はほぼ同じで、コインの裏表のような関係にあります。

私は私企業に長く在籍したこともあり、専門とする産業組織論にしても、経営戦略論にしても、より実践的な領域に関心をもっています。

現在は、本学のグローバルマネジメント学部の教授を務める他、長野市環境審議会の会長、小布施町下水道事業運営審議会の座長をやらせていただいています。

地域課題の解決に 学生が意欲的に関わる

—— 貴学は地域との関係についてどう考え、

自社の発展、業界の発展、そして地域の発展につながると期待しています。

全5回のプログラムで、すでに実施した第1回では、自身のフレームワーク、つまり自らの視野、視座、視覚を二端壊して物事を見つめ直し、第2回では真の問題を見出す手段としてのロジカルシンキングの演習を行いました。この先、第3回はビジネスモデルを問い直す訓練をし、第4回はイノベーションにつながるデータの捉え方を学びます。最終回となる第5回は、映画を使ったシミュレーションでリーダーシップについて考えます。この塾で自ら手を動かしたり対話を重ねたりする経験をして、実践力を身につけていただけたらうれしく思います。

今の時代のイノベーションは、そのリソースを1社では賄えないため、単独では起こせません。この塾でイノベーションに欠くべからざる実践を学びながら、共通の言語と想いを持つ同士のネットワークができることは、この長野地域でイノベーションが盛んになることへきつと役立つはずで

長野県は自然をはじめ資源が豊富ですが、まだまだそれを掘り尽くし、使い尽くし、味わい尽くす余地があります。私たちには地域イノベーションのチャンスは大いにあると思います。

DATA

長野県立大学
[創立] 2018年4月開学
(前身の長野県短期大学は1950年)
[所在地] 長野市三輪
および長野市南長野西後町
[TEL] 026-217-2240
[事業内容] 教育機関(大学)

横顔

若いうちからいろんなことに興味をもち、サッカーや野球の観戦に日本各地へ出かける。応援チームは東京から長野へ拡大中。舞台や映画の鑑賞、タウンウォッチングも楽しむ。